

平成28年11月12日(土)

保全活動に向け 活発な意見交換

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議（秋季）

夏山シーズンに終わりを告げた11月12日(土)、鶴岡市の朝日中央コミュニティセンター（すまいる）において秋季の巡視員会議を開催しました。

開会に当たり徳川計画課長より「朝日山地ぐらい色々な活動がされている保護林はない。皆さんの着眼点で、我々だけではわからない事をぜひこの会議で教えて頂きたい」とあいさつがありました。

巡視結果に対する意見交換では、ゴミの投棄はほとんど見受けられなくなったものの、登山道以外への踏み込みが昨年より多くあった。中には設置したロープを飛び越えて花の写真を撮りに行く者もあり注意が必要だ。

また、マツノクロホシハバチによるハイマツへの食害被害は減少傾向あるものの、今年もわずかながら食害が見受けられた。今後も観察を続ける必要がある。との報告もありました。



挨拶する徳川計画課長

さらに、朝日山地周辺で実施されている国有林の間伐作業に対しても、巡視員ならではの鋭い指摘がありました。「土砂が周辺の沢に流出し、イワナの生活環境を脅かしている」「搬出路が縦横にきられ、元の登山道がわからない状態。登山者から迷ったとの苦情が相次いだ」「木を満載したトラックが集落内をかなりのスピードで頻繁に往来している。人を見ても徐行しない。お年寄りなんかは下手すると風圧で飛ばされる」等。



会議風景

これに対し後日、山形署は、沢の実態を調査し対応。登山道の看板を設置。木材運搬業者に文書により注意喚起を行った。

改めて国民目線に立った事業の実行が求められた会議でした。